

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400058		
法人名	社会福祉法人中泊町社会福祉協議会		
事業所名	グループホームしおさい		
所在地	〒037-0512 青森県北津軽郡中泊町小泊朝間1番地25		
自己評価作成日	令和2年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番地30号		
訪問調査日	令和2年11月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①当ホームは立地条件が良く、周辺環境にも恵まれている。1階が町直営の診療所になっており、通院等とても助かっている。ホーム周辺には、消防署・交番・バス案内所・小学校・薬局・商店がある。また、同法人経営の居宅・通所・訪問事業所・支援ハウスが隣接していることから行事への参加・交流もを行っている。</p> <p>②海、山に囲まれた自然豊かな地域で、四季を感じていただける工夫、五感への働きかけに力を入れている。地域で自分らしく生活できるようにと職員は心をついに「地域で共に支えあい笑顔のある生活をめざして」を理念としてサービスを提供している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>ホーム近隣は消防署や交番、小学校や商店等もあり、生活環境の良い場所であり、1階は町直営の診療所となっており、利用者は医療面においても安心して生活することができる。また、デイサービスや支援ハウスも隣接しており、利用者の中には、デイサービスを利用していた方や支援ハウスに入居していた方もおり、お互いのイベント等を通じて、馴染みの関係が継続できている。職員も地元の方が多く、管理者を中心として職員の連携がとれており、ケアの方針は統一できている。「地域で支えあう笑顔のある生活をめざして」という理念のもと、日々のサービス提供に取り組んでいる。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域で支えあう 笑顔のある生活をめざして！！」を理念とし、管理者と職員は入居者との信頼関係を築き、入居者の誇りと培った能力を発揮できる環境と尊厳ある暮らしを支援している。	利用者が誇りを持ち、毎日喜びを感じて生活できるように、日々理念を反映したケアの実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のさまざまなイベントに積極的に参加している。中でも保育所・小学校発表会には、入居者も地域の一員として予行演習に参加し、日常的に交流している。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛している。	コロナ過前は、地域の保育所や小学校の行事の参加等、日頃から地域との交流は積極的に行われていた。また、併設のデイサービスの行事等に参加して、日頃から地域住民との交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	管理者及び職員は、実践を通して得られた認知症者への理解や支援方法をイベント参加や日常生活時にて啓発に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し、入居者の状況や待機者の状況等を説明し、参加者からの意見を求めている。また、職員の評価会議で意見をサービス向上に活かしている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、開催場所を変えて行っている。	運営推進会議を2ヶ月に1回、ホームとは別の場所で開催しており、ホームの近況報告や取り組みについて報告を行っている。メンバーからの意見は今後のサービス向上に活かすように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議で相談や意見交換を行っている。役場に行った際にも相談する等している。	町の担当職員は運営推進会議にも毎回参加しており、ホームのより良い運営に関して様々な意見をいただいている。わからないことがあればその都度連絡しており、関係の構築ができています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームは2階にあり、非常階段を含め出入口は3ヶ所あるが、日中は施錠していない。見当識障害や徘徊のある入居者の行動は、見守りや一部介助で階段からの転落防止等に努めている。「身体拘束ゼロへの手引き」の提示をしているほか「身体拘束廃止委員会」を設置し、3ヶ月に1回以上開催している。	ホームでは、マニュアルを整備しているほか、外部研修への参加や内部研修を通じて身体拘束についての内容やその弊害について理解しており、身体拘束はしないという方針で日々のケアに努めている。また、身体拘束廃止委員会による会議も定期的実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法については、職員の研修への参加や回覧にて周知を図っている。職員、一人ひとりの意識が重要と考えており、機会がある度に話している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点において、利用されている入居者はいないが、必要性を見極めて対応したいと考えている。金銭預かりが必要な入居者には、同意書をいただいて管理している。職員に周知も行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は勿論、必要と思われるときは訪問も行い、時間をかけて説明している。介護報酬等で利用料金の変更がある場合は、書面による説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者には、日常の中からさりげなく意見を伺うようにしている。ご家族には、面会や訪問により状況報告しながら意見を伺っている。また、玄関入口に提言箱を設置し、提言の機会を設けるとともに、速やかに運営に反映させている。	職員は利用者の言動や表情、日々の会話の中から意見を察するように努めている他、毎月利用者の暮らしぶりがわかるように広報を発行しており、家族が意見等を出しやすいように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は月1回の職員会議、または状況にあわせ施設長、事務局への報告、連絡、相談を行っております。年1回は代表者との個人面談があり、意見を出せる機会を頂いております。	月1回の職員会議や毎日の申し送りの際に、職員が意見を出したり、提案できる環境であり、職員の意見をくみ上げ、より良いホームの運営に反映できる体制が整えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、個人面談を毎年実施し、職員一人ひとりがやりがいや向上心を持って働けるよう、職場環境の改善・就労条件の改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は年間の職員研修計画に基づき、最低年1回は法人以外への研修機会を確保するとともに、必要な研修への参加を促し、人材の育成・確保に努めている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるグループホームとの交流会が3ヶ月に1回、近隣のグループホームとの交流会を年に2回、診療所の地域連携会に月1回参加している。そのほかにも、機会がある度に参加し、サービスの質の向上への取り組みをしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族との面談時に、入居前の情報を念頭に置きながら不安や要望の把握に努め、本人の安心確保のための関係作りに配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前に家族等が困っていることや不安なこと、要望等をしっかり傾聴し、家族等との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面談時、本人と家族のその時の思いや状況等を確認し、必要としている支援を見極め、必要に応じて他のサービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	謙虚な気持ちで支えあい、「喜怒哀楽」を理解し、その人らしい日々の生活支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は面会時やお便り等で状況報告や傾聴に努め、入居者と家族の絆を大切にしながら支援の必要性を伝え、共に本人を支えていく関係を築いている。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、特設面会コーナーで人数と時間制限で対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前、デイサービス利用者には、交流継続を図り、行きつけの理容院・美容院への外出、友人の面会等、本人が安らげるひとときを過ごせるようにしている。	入居時のアセスメントで馴染みの人や場所について把握するように努めている。希望があれば地元美容院に行ったり、馴染みのスーパーに買い物に行く等、利用者の思いに寄り添った支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格や周辺症状を把握し、入居者同士の会話の見守りを行い、関係が上手くいくように職員が調整役で支援している。変化があった場合は、管理者が居室で傾聴して問題ないか伺っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所となった場合でも、担当ケアマネジャーと連携を図り、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で意向を伺ったり、言葉や表情等を観察し、真意の把握に努めている。困難な場合でも同様に接し、家族に相談している。	職員は普段のなにげない会話の中から、利用者の視点に立って、思いや意向を把握するように努めている。また、入居者のことをよく知っている家族や関係者からも情報収集を行い、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅時の情報収集に努め、一日も早く馴染んでいただけるようにしている。亡き人の位牌も持って来ていただいている。また、入居者の状態に合わせた対応をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの生活リズムや心身状態の変化は、申し送りや記録で周知を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者には、事前に担当者会議への意向等を伺っている。また、日々の生活からも把握し、月1回の職員会議で検討している。職員からの印鑑で周知ができたことを確認している。	日頃から意見や意向を聞くように努めており、個別具体的な計画を作成している。介護計画は定期的に見直しをしている他、身体状況や希望に変化があった場合は、その都度変更を行い、利用者の現状に即した介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルで健康管理面や日々の生活状況を記載し、申し送り等で全職員が共有できるようにしている。状態変化に気づいたことを計画への反映や実践に速やかに活かせるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が遠方から来た際の対応や外出、外泊等、状況に合わせた対応を臨機応変に行っている。家族との外食の他、自宅を見たいと申し出があった際は職員が連れて行く等している。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、自粛している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協が経営するデイサービスとの合同夕涼み会や地域の祭り等のイベントに出かけ、家族との交流やカラオケ等を楽しんでいる。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、状況を見極めて対応している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望される病院への通院介助や受診援助を行っている。1階がかかりつけ医となっており、いつでも相談できる状況になっている。変化のあったときは、随時家族に連絡している。	入居時に通院歴を把握し、利用者や家族が希望する医療機関を受診できるようにしている。また、認知症や眼科等の専門医の通院についてもホームで支援している。受診結果の伝達方法についても、利用者や家族の納得が得られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身の状態変化は、常に申し送りを行い、1階の診療所看護師への相談を随時行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の安心治療や早期退院ができるように、病院関係者との情報交換や相談に努め、退院後の対応に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方は、かかりつけ医や家族等と話し合いを行い、ホームですることの説明と方針を共有し、終末期の支援をできる範囲で取り組んでいる。	入居時に、重度化した場合や終末期の対応についてできること、できないことを説明し、ホームの方針を明確にしている。建物の1階が協力医療機関であるため、日頃から連携を図っており、チームで支援する体制ができている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が応急手当講習会研修を受講している。また、夜間時は一人であることから、応援要請について決めており、緊急時の対応が素早くできるように実践力の向上に日頃から取り組んでいる。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災・避難訓練を実施している。毎年、運営推進会議中に大津波を想定した訓練を実施しており、3階に避難する等、地域との協力体制強化に努めている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、外部との訓練は自粛している。	年2回行っている避難訓練には、地域の消防署や運営推進会議の委員も含めた近隣住民の参加も得ており、地域との協力体制はできている。また、災害時に備えて備蓄品も用意している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格等を把握し、援助が必要なときも相手の気持ちを考えて、さりげない優しい口調でケアすることを心掛けている。また、職員実践訓練を常に念頭に置いて対応している。	利用者への声掛けや対応について、ホーム全体で日々確認し、改善に向けた取り組みを行っている。羞恥心やプライバシーに配慮して、一人ひとりに合わせたケアが実践できるように心掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中から、入居者の好み等について把握し、自己決定ができるように支援している。外出やレク等においても、強制にならないよう行っている。難聴のある入居者には、耳元でゆっくり話しかけたり、ジェスチャー等で支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、そのときの体調や気持ちを尊重し、一人ひとりのペースに合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には入居者が選んでいるが、外出時は季節に合った服装のアドバイスを行っている。髪型は美容院に来ていただき、好みの髪型にしている。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、近隣の美容室に職員が送迎をして、3密にならないよう気をつけて対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者を利用しているが、週2日はホームで入所者の食べたい物を聞いて、地域の食材を使って喜んでもらえるように工夫している。業者のメニューには郷土料理が組まれている。辛いものや硬いものが苦手な入居者には工夫して提供している	利用者の好き嫌いや希望を聞いて、意向に沿った食事を提供できるようにしている。利用者も調理の下ごしらえを手伝う等、準備も含めて食事の時間が楽しく過ごせるように工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に合わせた食事提供を行っている。摂取量のチェックには、食事量や水分量を記録して確認している。歯の状態に合わせた工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	モーニングケアは勿論、毎食後の誘導で口腔ケアしていただいている。上手く洗えない入居者には職員が手伝い、夕食後は入れ歯洗浄剤に入れて消毒している。入れ歯があわなくて痛みを訴える場合は、家族に連絡し、歯科受診を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握をしている。個別に陰部洗浄や尿とりパットの確認をしている。見当識障害のある入居者には、時間誘導でトイレでの排泄をしていただき、自立に向けた支援を図っている。	利用者一人ひとりの排泄チェック表を記録しており、それぞれの利用者に応じたトイレ誘導を行っている。利用者の意向も踏まえた上で、排泄の自立支援に向けた見直しを随時行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表で確認している。下剤の必要な入居者には下剤投与を行っている。毎日の歩行運動や食物繊維の多い食べ物を提供する等、個別の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	入浴日は週2回にしており、一人ひとりの身体状態に合わせて行っている。順番等の配慮をして支援している。また、楽しみながら入浴してもらえるような声掛けや介助を心掛けている。	ホームでは週2回入浴できるようにしており、利用者それぞれの習慣や、意向に沿った対応をしている。利用者のその日の体調や状況に合わせて、時間や曜日を変更する等して、柔軟に対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状態観察を行い、不眠時の原因把握に努めている。昼食後は居室で休まれる入居者もいる。眠剤服用されている入居者には、日中の活動に影響がないかを確認している。夜間は、ふらつきや転倒しないように見守りを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個別ケースに入れており、いつでも確認できるようにしている。受診後は必ず報告し、周知を図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中でできること、できないことの把握に努めている。洗濯物の手伝いやテーブル拭き、おしぼり等を強制的にならないようお願いしている。山菜処理は全員で行い、会話をしながらにぎやかに行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望があれば、行きつけの理髪店に連絡して、連れて行っている。また、行事での外出や地域のイベント等、外出の機会を多くできるように工夫している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、理髪店との連絡を密に行って対応している。	コロナ過で外出支援を自粛しているが、できるだけホーム内でできる行事を増やしたり、近隣へドライブに出かける等、利用者の楽しみや気分転換につながるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことの安心感を理解し、少額を所持していただいている。自由に買い物ができるように同行している。使途内容は記録に残している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は遠慮なく使えるようにしている。手紙が来たときは、代読する等している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	適切な温度や湿度調整を行っている。また、職員は季節感を採り入れる工夫をしたり、入居者にとって不快感や混乱を招くような刺激がないように配慮している。居心地の良い空間作りのため、馴染みの物や好物を置き、心地よく過ごせるようにしている。	ホーム各所に温度計や湿度計を設置しており、利用者は快適な環境の中、それぞれのお気に入りの場所で思い思いに寛いで過ごしている。また、ホールや廊下には季節が感じられる手作りの作品が飾られており、利用者や家族から喜ばれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中はほとんどの入居者がホールで過ごしている。席順等を工夫して、会話が弾むようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは入院室であったため、病院のイメージが強いが、入居者の使い慣れたものや写真等で居心地の良い居室になるように工夫をしている。	入居時に馴染みの物を持ってきてもらうよう声掛けしている。居室には、家族写真やお気に入りの人形や置物等の多様な持ち込みがあり、利用者が安心して穏やかに過ごせるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはドアがないため、プライバシーへの配慮として、鈴を付けたアコーディオンカーテンを設置している。職員用トイレにはドアがあるので、入居者も使えるようにしている。身体状況に合わせた安全な環境作りを行っている。		